

★委員会

	教育委員会	業務委員会	手順・基準委員会	褥瘡対策委員会	医療安全対策委員会	糖尿病看護(PJ)
目的	・看護および介護の知識・技術の向上を図り、より良いケアを提供する	業務内容を見直し、業務改善を図る	看護業務の実践に活用できる看護基準・手順の整備	患者の安全・安楽を保証するため、褥瘡の治癒を促す方策を実践する	患者の安全・安楽を保証し一定レベルの医療・看護を実践する	・糖尿病に関する理解を深め、患者支援ができる
目標	・年間計画の立案 ・院外研修の情報共有 ・個人目標の設定と評価	各部署の業務の効率化に向け、根拠を示し業務の改善を明示する	看護基準・手順の追加・修正をし、院内で統一できる	褥瘡対策の強化	セイフティマネジメントの推進	・糖尿病教室の開催 ・DM患者会の開催に向けた支援
年間計画	・委員会の開催（1回／月） 年間計画の立案、実施 ・個人ごとのファイルを作成し、研修会参加の記録 ・1回／年以上院外研修に参加するよう働きかける ・目標管理の実施と円滑な運用	・委員会の開催（1回／月） ①各部署の業務内容の見直しと改善策の提示（6ヶ月） ②提示された業務の実施（2ヶ月） ③アンケートによる調査と結果の集計（3ヶ月）	・委員会の開催（1回／月） ・現在の看護基準・手順を見直し、追加修正が必要な項目を洗い出す ・委員会で決定後、師長・主任会議で検討する ・各部署の看護基準・手順の差し替えを行う	・委員会の開催（1回／月） ①新規の褥瘡発生を予防する ②DESIGN-Rを活用し褥瘡の治癒を促す	・委員会の開催（1回／月） ①ヒヤリハット報告書、インシデント・アクシデント報告書の分析（6ヶ月）と活用 ②感染対策の強化 ③医療安全推進に関する研修会の実施 2回／年	・糖尿病教室の開催（糖尿病治療の理解の推進、食事療法の実際、会員相互のコミュニケーションの場の提供） ・DM患者会の開催に向けた支援（総会、学習会、芋煮会リレーションなど）

★教育

<看護研究>

○ 2023 年度

- ・セルフケア能力の開発を目指した糖尿病教室の開催
- ・拘縮のある患者への茶葉を用いたハンドケアの効果
- ・COVID-19 によるクラスター発生におけるスタッフの心理分析
- ・当院における透析患者の動態—過去 10 年間を振り返って—

○ 2022 年度

- ・クロストリジウム・デフィシル腸炎と院内感染について
- ・外来看護師の接遇～自己評価により患者接遇の現状と課題を明らかにする
- ・不穏患者様による転倒や転落についての対応と対策
- ・災害時における緊急離脱方法～手回しハンドルでの返血を経験して～

★CSR (Corporate Social Responsibility)：企業の社会的責任

○ 相馬地方新人看護職集合研修協議会の設立と運営

2010 年 10 月に相馬地方の病院および看護学校と連携し協議会を設立する。2011 年 6 月から新人研修会を発足し、新人看護職員対象の研修開始し、学習支援、離職防止、リアリティショック対策を行う